

学校図書館支援センター通信 NO.19 3月号

平成20年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

学校図書館を支える力<人間力>!

～「学校図書館支援センター推進事業」を終えて～



平成18年度文部科学省より指定を受けた「学校図書館支援センター推進事業」も、本年3月末で指定が終了します。本事業の基本コンセプトは、マンパワー<人間力>!

研究協力校7校（国府台小・中国分小・大洲小、大野小、第七中、東国分中、南行徳中）の学校図書館員の皆さんには、本来の学校図書館員としての勤務に加えて、協力員として年間に20～60日の勤務をしていただき、司書教諭さんと協働しながら学校図書館運営にすばらしい実績をあげてくださいました。

また、教育センター内には、「学校図書館支援センター」を設置し、当該センターに所属する学校図書館支援スタッフが各学校図書館のニーズに応じてその運営を支援してきました。特に、酒井支援スタッフは、新任学校図書館員さんの勤務校を中心に、年間で47回の学校図書館訪問において、的確で温かい助言と協働により多くの学校図書館を支えてきました。

「学校図書館機能の充実・強化を図り、子どもたちの心と学びを育てるものは、何よりも<人間力>である。」ということを改めて実感しました。

事業へのご理解と多大なるご協力を賜りまして、ありがとうございました。

「なんで図書館支援スタッフを私のようなものがしているのだろうか?」という疑問がいつも頭のなかになり、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。図書館員さんを通して、大好きな子どもたちや本とつながっている喜びに励まされ、なんとか三月。前向きで、真面目な方ばかりの図書館員さんと接していると、力量不足の私ですが、図書館員さんたちが楽しく生き生きと笑顔でお仕事ができるよう、少しでも力になりたいと心がけてきました。生け花の師に教えられた「手伝ってもらいたいことをくみとってお手伝いすることが本当のお手伝い。」どれだけくみとることができ、お手伝いになったか!? 自信はありませんが…。子どもたちがいる職場は楽しいですね。本のことも、皆さんにたくさん教えていただきました。ありがとうございました。（学校図書館支援スタッフ 酒井セイ）



<文学プラザからのお知らせ>

企画展「てこなーその姿をもとめて」に併せて、企画展の図録『てこな TEKONA』を作成しました。市川に伝わる「真間の手児奈」の伝承を子どもたちにわかりやすく解説（ルビつき）しています。各小・中学校に1部お送りしましたので、ご活用ください。

（1部400円で頒布もしています。）

問い合わせ 文学プラザ TEL 047-320-3354

『市川市学校図書館フェスティバル』記録CDを配付します。

「市川市学校図書館フェスティバル」の記録CDを幼稚園、小・中学校、特別支援学校に各3枚ずつ配付いたします。記念講演会、事業報告、シンポジウム、分科会などの内容を映像と文字で紹介しています。

特に、片山善博先生のご講演と各分科会の実践発表は必読・必見!ぜひ、ご覧ください。『教育いちゃわ』『支援センター通信』も掲載しています。

読書の町市川とともに歩いて・四（最終回）



「読書が人を変える」なんて本当かなど、どこかで思っていました。しかし、丘修三さんの本を読んで、図書館登校の子がもう一度がんばってみると言って、講演会の後、教室に向かっていきました。また、校長先生と一緒に『歯型』を高学年に読み聞かせに行った時、校長先生の目から涙がすうーとこぼれていました。先日も同じようなことがありました。きっと、子どもたちの中には、この本を思い出した子がいるでしょう。そして、松谷みよ子さんの切ない思いが込められた『わたしのいもうと』は、一冊の本の重みを感じさせられます。

八幡小に来て5年目、学校目標の「あったかはあと」になる本を全校にアンケートをとり50冊が選ばれました。その中で、4年前、6年生の担任が読み聞かせさせた『うさぎのユック』は、感想を放送したら、たくさんの子が借りにきて、今でも話題の本です。50冊の一冊一冊に思い出が込められています。

読書を通して、たくさんの本や人に出会えたことに感謝しています。

本当にありがとうございました。

（八幡小学校 学校図書館員 加藤秀子）

図書館の窓から

～ひろげよう!図書館の輪・リレー執筆～



本を探しやすくするために、今年度から図書記号をカタカナに変更しました。図書委員会の活動が活発で、請求記号の貼り替え作業は順調です。2年国語科で各クラス2週間ずつ、本の紹介カードの展示をして、大人気でした。中学生の潜在能力と3年間の成長ぶりにはいつも驚かされます。

青春まっただ中、心揺れるお年頃の中学生にとって、憩いの文化サロンであり、学習と読書の強い味方であり、要望に対応して常に進化・変化していく「楽しい図書館、役に立つ図書館、変化する図書館」を目指しています。

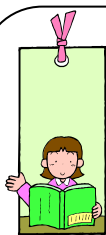
（第八中学校 学校図書館員 武藤安津子）



図書委員会の活動

路子の部屋

市川では、ほとんどの学校が朝の読書に取り組んでいますね。特に中学校では、毎日実施しているところが多くあります。先日、第四中学校の朝読書の時間に、「市川子どもの本の会」の一員として読み聞かせをしました。図書委員会主催の学校行事として、ここ数年実施されており、二年生全クラスに5人の会員が出向きました。



私が読んだのは絵本「キング牧師の力づよいことば マーティン・ルーサー・キングの生涯」(国土社)。ちょうどオバマ新大統領が誕生した直後で中学生に知ってほしいと思ったからです。落ち着いて素直な四中生に、こちらまで心が穏やかになり、至福の時を過ごさせてもらいました。お礼の言葉を述べてくれた図書委員の生徒の素敵だったこと。

次回は一年生を対象に市川の民話を伝えます。

※ 雑誌『学校図書館(3月号、第701号)』(全国学校図書館協議会発行)において、「学校図書館を評価する」の特集が組まれています。その中で、『チェックリストを活用した学校図書館評価』と題して、市川市における学校図書館の評価活動について、ご紹介をさせていただきました。チェックリスト作成の経緯や評価の意義と状況等に触れていますので、ご覧いただければ幸いです。

今年度もお世話になり、ありがとうございました。また来年度もよろしくお願いします。(敏)

『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。

市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

〒272-0015 千葉県市川市電高1-1-4 TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352

<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

